

奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉

アーレマンスレッツ (Allemansrätten) 小嶺 敏勝

昨年北欧3カ国(スウェーデン、ノルウェー、デンマーク)をレンタカーで駆け巡る旅に行ってきた。ストックホルムを起点に走行距離3,000km。

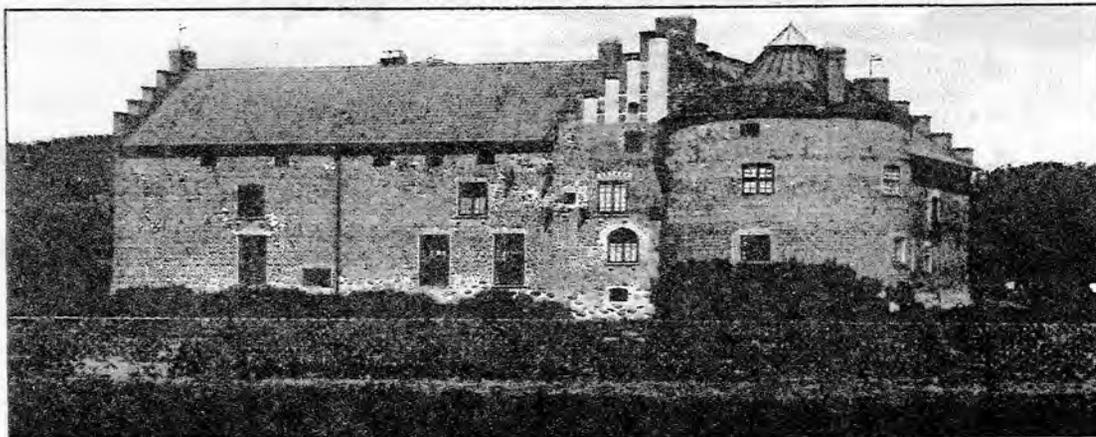
ストックホルム空港、先ず驚きはフロアが見事なウOODの床でしきつめられていた。さすが森林の国(森林の占める率70.2%日本68.2%)だと感心する。ストックホルムは綺麗な水と緑の中に、13世紀からの街並を残す美しい都市である。街路樹も立派だが特に公園には300年を超えるであろうオーク、ブナ、ハルニレ、マロニエ等が圧巻だった。木々を大切に出来るのは、夏の短い北欧では自然の重要性が身に滲みてわかるのだろうか。

スウェーデンは南部のスコーネ地方を除き伐採跡は岩盤が露出している。しかしそこには例外なく丁寧な植林がなされていた。痩せ地を何世紀もかけて岩を砕き落ち葉を重ねて土を作り植林をしてきたのだろう。公園以外は大木が見られない、精々、直径は人の大腿程度だ、自然の厳しさが伺える。高い山はほとんど見られない、丘の程度、無数の輝く湖、清冽な緑が良く手入れされ何処迄もつづく、道は縦横に伸びている。これは里山なのだと、ふと思った。

同行の友人からスウェーデンには「アーレマンスレッツ」(みんなの権利という意味)と言う法律(慣習法)が有る事を知る。自然享受権=自然の共有権 所有者の許可がなくても、個人がモラルをもって他人の森、山に入り自生する植物を摘む権利が法律で認められている。

すなわち森林、湖、何処でもキャンプ、水浴び船遊び、魚釣等、自然を楽しめるというもの。一方自然をみんなで共有するという思想は、自然破壊を阻止するというモラルを生み出し、自然を愛するスウェーデン人の原点とも成っているようだ。(スウェーデンの四季暦参考)。実際、今回の旅行中、立ち入り禁止の立て札や扉、フェンスのたぐいは、一切見かけなかった。自然が好きな会員諸兄、広い土地を所有しているとして、他人が黙って山菜や茸を採ったり釣や、キャンプをしていたら、どうします?町から10分も走ると何処も限界集落に見えたが人々はゆったりと生活し、柔らかい表情が、強く印象に残った。根底には福祉が充実し老後も安心して迎えられるから、ではないだろうか。

〈スウェーデンの古城(今も住んでいる)〉



7月2日(木) 参加者 午前11名、午後22名 担当 守口京子、水本遼真

午前、雨上がりのなら山フィールドをみんなで散策した。いろいろの植物の実がなり始め、コナラ、ガマ、アケビ、ウワミズザクラ、タカノツメ、コウゾなどそれぞれにかわいくてユーモラス。シャシャンボとホタルブクロの花、飛び回るチョウ達、キビタキの美しい声。こんなにいい所だったのかと再認識しました。午後からは場所を佐保台ふれあい会館に移してお話の会をした。阿部さんからはなら山の活動の取り組みの経過を映像を交えてお話いただきました。古川さんからは「ならやま古代歴史散歩」と題して古事記の中からこの地ゆかりの話2話、悲惨な相続争いに敗れ去る大山守命の話と嫁ぎ先と実家の間で揺れ動く狭穂姫の話をしていただきました。鈴木さんからは「ちょっと昔の平城山」と題して「吉田儀助さん」を訪ねて聞き取り調査に行かれた時のお話と、明治から現在に至る地域の移り変わりの様子を古地図や写真などたくさん資料に基づき紹介していただきました。参加者は3名の方々の熱意あふれるお話に興味深く聞き入り、また蛍復活の話などを語り合い3時に閉会した。

7月例会「メモ帳」から・・・

吉村 さつき

畑では元気の源、アピオスの花が咲いていました。

三つ葉アケビは実がなっています。

ウルシの説明では縄文時代の漆塗りの櫛が見つかったとの事。

漆の素晴らしさを熱く語っていただきました。

見慣れた木や花も説明を受けると又違った見方が出来ました。

整備された里山はとても気持ち良く、お世話くださる方々に感謝・感謝の観察会でした。

7月例会

感想文

森 英雄

私には「時間と空間の織りなした一点に現在のその“場所”があり、“自分”がいる」と思うところがあり、平城山での活動の機会を得て、今回の企画は本当にありがたく、又楽しく聞かせていただきました。講師3人の方の、記紀の紐解きから航空写真までを駆使して、飛鳥時代から明治・現在までの面的広がりのある時の流れを感じることが出来ました。これらを踏まえてこの会がどう進むのであろうか？ 私は？ いつか、さらにこの「会」の歩みも聞かせていただけたらなおありがたいなあと思いました。

〈癒しの散歩道〉

緩む季節の際立ち

谷川 萬太郎

春に別れを惜しむ間もなく	緩む季節の際立ちが顔を覗かせ
たがのゆるんだ時世のように	その戸惑いの姿を露にするのだ
梅雨の滴も枯れ果てる程に	草花も木陰と涼風を追いかける
歩くたびに纏わり突く夏の陣	軒先のツバメが口ばして突いた
風もないのに揺れる風鈴の	音色を疑う耳がその行方を捜す
焼けるような肌に縋りついて	玉露が生まれては消え流される
群れ飛ぶような壺の足音が	この碧空に明るく響き遠ざかる

ならやまプロジェクト・レポート 21年7月

6月27日(土) 晴 カブトムシ成虫の保護ケース設置

- ・いよいよカブトムシの羽化が始まり、成虫の世話用のケースへ引っ越し作業開始。4月に設置したカブトのパーツから、30匹以上の成虫が元気よく出てくる。これから毎日世話をし、7月25日の里山の昆虫観察会にお目見えさせる計画。それまで元気でいてくれるよう世話する日々となる。

7月7日(火) 曇り一時雨 佐保台小 田圃観察会 13名、インプリ研修会 17名

- ・田植えから約1カ月、佐保台小学校5年生が田圃を観察に来訪。3本ずつ植えた苗が20~30本に増えたとびっくり。稲や田圃の生き物についての質問や、「奈良・人と自然の会」についてのインタビューの申し入れもあり、我々の活動について関心が高まっていることがうかがえました。なお、田植えの実習について、担任の先生と生徒全員から丁寧なお礼の手紙が寄せられました。
- ・ならやまのフィールドでは初めての、インタープリテーションの研修会が実施され、倉田さんほか2名の指導で14名が参加しました。(レポート:別掲) 午後3時30分解散

7月8日(水) 曇り一時雨 自転車道路沿いの環境整備 畑の草取り 参加者 17名

- ・今回の環境クリーンアップは、全員で、道路沿いのヒマワリの植栽の除草をおこなう。サツマイモやサトイモ畑、田圃などは、夏草との戦いが本番を迎える。「早期除草」、「継続は力なり」をモットーに、体力と相談しながら地道な努力が続く。
- ・蒸し暑い気候を考慮して、作業は午前中で終了、午後は自由活動とする。今日の土産は、大和野菜のヒモトウガラシ、下仁田ネギ。メンバーの努力と汗の成果に敬意を表して持ちかえりました。 午後2時解散

7月13日(月) 晴 「野鳥観察の日」 参加者4名

7月16日(木) 晴 「ならやま山の日」 遊びの森整備 参加者25名

- ・本日は、里山D2地区「遊びの森」の整備を開始する。この場所は、アカマツ、コナラが主要な樹種で、ヒサカキ、ソヨゴが混じる平坦地。今回は、予定区域にある枯倒木を撤去し、笹やヒサカキの下生え類を刈り取る。女性3人を含む15人の奮闘で、約800平米の「森の広場」が出現する。ここは、真夏の日差しも木立に遮られて、爽やかな風が吹き通る林間の別天地。「ハンモックを吊りたい」「ツリー・ハウスを作ろう」「ネイチャー・ゲームを」など、達成感に浸りながら、しばし疲れを忘れたことでした。
- ・別働隊は、安全対策の一環として、里山の入り口の階段作り。暑い中で消耗する作業でした。ご苦労様。
- ・暑さの中の活動は、午前中で終了。ならやま特産の梅ジュースに疲れをいやし、午後は、6月に続いて境さんの指導で、「ロープ・ワーク研修会その2」を実施。呑み込みのいい人もそうでない人も、思い思いに楽しんでいました。本日の土産に、ナス・クラブからご自慢の艶やかなナスを、たっぷり提供いただきました。多謝!
午後2時解散 (古川 祐司 記)

ならやまの7月の鳥

小田 久美子

今月は4人で回りました。巣立ちを終えたファミリーたちの声が溢れていました。
8月からは時間が元に戻り、9時からの観察になります。気を付けてご参加下さい



【小学生からの礼状】<ならやまの田植え実習無事終了> 絵：高橋 七海

★6月4日佐保台小5年生11名が田植えに来てくれました。その時のお礼状が担任の河戸先生とクラスの子供たちから当会に届きました。紙面の関係で一部を紹介します。

★なえを投げるのはおもしろかったです。田植えは初めは気持ち悪いと思っていたけれど入ったらきもちよかったです。一回だけ田植えはしたことがあったけど、そのときは田の中に入れてもらえなかったのでおもしろくなかったけど、今回は入れてうれしかったです。いい体験をさせてくれてありがとう。

唐箕も見せてくれるだけじゃなく、体験までさせてくれてありがとうございます。唐箕のハンドルみたいのをずっと同じスピードで回すのはむずかしかったです。今後もお世話になります。よろしくおねがいします。

藤原 和也

★この前は田植えをさせていただいてありがとうございました。田植えにはだしではいったときは、あるけなかったし痛かったけれど田植えはこんな感じなんだな～と思いました。田植えはそうかんたんにできる仕事ではないのに田植えをさせていただいてほんとうにありがとうございました。シートやタオル水まで用意して下さいありがとうございました。地面をはだしであるいた時はすごくいたかったです。足をあらうとき土はなかなか落ちませんでした。くつ下をはくのも時間がかかりました。でもこんな体験ができてうれしかったです。次は草とりをしにいきます、これからもよろしくおねがいします。

大倉 彩夏



絵：澤井 智裕

★先日はいろいろとお世話になり ありがとうございました。田植えする前にいろいろくわしく教えていただき、とてもわかりやすかったです。そして田植えのときは、タオルやビニールシートなどを用意していただき、ほんとうにありがとうございました。初めて田植え体験をさせていただいた感想は、まず中は暖かく、むにゅっとしていて最初はとまどいしましたが、なれてくると、とても気持ちよく、とても楽しかったです。オタマジャクシやアメンボなどいろんな生き物がいてびっくりしました。

そのほかに、とうみ（唐箕）を見せていただき体験もさせていただいた、とてもうれしかったです。これからも、おもちつきや、かりとりなど、いろいろとお世話になることがあると思いますが、どうぞよろしくおねがいします。

中村 有沙



インタープリテーション入門講座実施される!!

7月7日七夕の日、ならやまフィールドでインタープリテーション入門講座が実施されました。天候が心配されましたが、午前中はしばらく雨に降られたものの、そのあとは雨も上がり、順調にとり行われました。その概要についてご報告いたします。

1. 参加者氏名：合計14名が参加されました。

伊藤純子、岡田勝夫、小田久美子、甲斐野幸一、勝田緑、菊川年明、木村裕、小嶺敏勝、坂本順一、塩本勝也、寺田孝、豊島すみ子、橋本由美子、林令子の皆さんです。

2. 講師：シニア自然大学研究部インタープリテーション科の3名（石橋、倉田、小林）

3. 実施内容：10時から10時30分までオリエンテーションならびに「インタープリテーションとは何か」の解説がありました。

そのあと12時までの時間を7名ずつ2班に分かれて、学びの森、希望の丘、たけのこ平と講師のインプリを聞きながら回りました。

休憩のあと参加者が担当ポイントを決め、1時から2時30分までの間、資料のインプリモデルを参考に実習しました。

2時半から3時まで振り返りでした。

4. インプリで取り上げたポイント：以下のポイントが基本ポイントでした。

ポイント	テーマ
マグワ	命をつなぐ木
1分間3本勝負	目を閉じて森と一体になる
ネジキ	名は体を表す
ソヨゴ	尾根筋に多い木
落ち葉の行くへ	分解者の役割
コナラ、クヌギ	ドングリのいろいろ

このほかにも鳥見の丘、コシダの遊び、サルトリイバラ、里山の名残など随時取り上げられました。

5. 参加者の感想：参加された方々は次のような感想を述べておられました。

- ①一方的な話ではなく、対話形式で進めていくのが大事だと良くわかった。
- ②実際に自分でやってみて、話し方の工夫の必要性を実感した。
- ③子どもたちにどのように関心をもたせるか、話し方、小道具など工夫が必要だ。
- ④インプリモデルが大切だと良くわかった。作り方を学びたい。
- ⑤コシダのびよん、クワの葉のジャンケンポン、ドングリクイズなど楽しかった。
- ⑥メンバーのインプリの仕方がそれぞれ違っており、参考になった。

インプリの経験がある人、全く始めての人などバラエティに富んだ集団で、講師の皆さんもやりずらいかなと思ったのですが、却って変化があつて楽しかったとのことでした。

6. その他

奈良・人と自然の会で今後展開することも検討している「小学校校庭の自然観察会」では、こうしたインプリの技能が大事な要素となるでしょう。今回の講習会は初めての催しでしたが、今後とも機会があれば開催し、お互いに力をつけていくことが望まれる感じがしました。

（倉田 晃記）

「奈良・人と自然の会」に入会して

八木 順一

仕事を辞める、と決めた時にまず頭をよぎったのは、経済的に大丈夫か、ということと余裕のでた時間をどう遣うか、といったことでした。幸いにしてシニア自然大学に入学を許され、一年間自然を巡る様々な課題等に耳を傾けたり、自然の現実を目に向け、考える機会を十分すぎるほど与えられました。ここ関西に長く住みながら、聞いたこともまた行ったこともない場所に足を運びながら、多くの人と知り合ったことも大きな成果でした。

そして4月。この会に入会を許可されました。以前からこの平城には度々足を運び、ボードウォッチングや歴史散歩を繰り返してきましたので、この会を知ったときには、身近なものに感じられて仕方がありませんでした。三ヶ月を経て、いろいろな事業に参加をしながら、環境の保全と平城の地をますます大切にしていこうとする会員の方々の熱意を日々感じさせて頂いている昨今です。よろしくお願ひいたします。

奥明日香フィードづくりにチャレンジします

森川 生一

去る3月7日の『しいたけづくりinならやま里山林』では、貴重な指導者体験を得る機会を与えていただき、ありがとうございました。

私は定年まであと2年少しある第一の人生の現役です。そろそろ第二の人生（私がしたいことをしても良い人生にしたいと思っています。）のことをあれこれ楽しく考えています。その一つが、老いた両親が待つ奥明日香の田舎にできるだけ帰って、放りっぱなしになっている山の面倒をみよう、単に間伐をするだけでなく、森林環境教育のフィールドに活用できればと考え、昨年の研修講座受講に繋がってきました。

入会というご縁を与えていただきましたので、ますます奥明日香の山を整備して、環境教育のフィールドをつくりたいと考えています。本会には、様々な経験をされたすばらしい先輩達がおられると感じています。本会の活動にできるだけ参加させていただき、様々なノウハウを伝授いただき、奥明日香フィードづくりに活かしたいと考えています。どうかよろしくご指導いただきますようお願いいたします。

「ならやま・里山に集う人達の笑顔に触れて」

池田 信明

私が「奈良・人と自然の会」を知るきっかけは、シニア自然大学に在籍している昨年に教育実習でお世話になった事からです。一回目で先ず感じた事は、街中の近場に、こんな隠れ里の様な場所が有る驚きと、正に里山と言われる様な条件が揃った地形と景観になにか親近感を覚えた事を思い出します。実習に参加させて頂く度に、会員の方達が様々な作業を協力しながら、真剣に、楽しそうにされている姿を見て、同じ目的と気持ちを持ち、ならやまに集まっておられる事がよく分かりました。先輩会員の方々から温かく迎え入れて頂き、入会から3ヶ月を過ぎましたが、活動日に行く度に、畑は手入れされ、林は林内整備が次第に進み明るく変わり、理想の里山に近づいている様子が良く感じられます。

今後、このかけがえの無い環境を守りながら、さらに、林内、田畑、ピオトープなどの整備が進み、誰もが五感で体感出来、子供達の楽しそうな笑い声が里山にひびき渡る、ならやま里山になるよう願うものです。



新入会のご挨拶

橋本 由美子

私は、今年シ自15期風組を卒業しました。出身は横浜市で、結婚して大阪市内に移り住みました。子供のころは野山を走り回って遊んでいましたので、山でも海でも自然の中にいるのが好きです。この会は、「ならやまBC」での野菜づくり、山の整備、子供たちとのふれあい、観察会、ハイキング、研修旅行などプログラムがとても豊富で、何より人が温かくて、みなさんニコニコして親切にしてくださり、とても居心地がよかったです。入会させていただきました。先日、「金沢・能登 里山文化を訪ねる」研修ツアーに参加させていただきました。これを含めてもまだ5回しか参加していませんが、その回を重ねるごとに、ますます「奈良 人と自然の会」が好きになり、今では次いつ参加できるか、ワクワクして予定表を見えています。農作業の経験もなく、得意なこともありませんが、性格はとびきり明るいです。どうぞよろしく願いいたします。

次代に残す環境と景観づくり

藤田 秀憲

今年4月に入会しました。月に2回は参加出来ると思っていたのですが、他の予定と重なったりして思い通りにはいかず残念です。

日本古代史に興味があって、あらためて「奈良・人と自然の会」の活動フィールドの周辺を眺めてみますと、平城宮跡・佐紀楯列古墳・(平城山一帯)・東大寺・興福寺・春日大社・春日山原生林等々が連なり、自然と歴史遺産が豊かに残された稀な地域だと思います。

奈良県の要請で、平城宮跡一帯が「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園」に指定され、今後10数年かけて平城旧跡の建物復元や広場の整備が進められようとしています。

そうした中で「奈良・人と自然の会」は、単に自然環境の保全・教育活動にとどまらず、歴史的風土景観を保全する事業にも参画しているという実感が湧いてきます。

今後ともマイペースで楽しく参加させていただきますので、よろしく願いいたします。

リュックと背中の温もり

中西 輝雄

シニア自然大学第15期(H20年度)を3月終了前に、進路指導で会の活動について親しみのある説明を受けました。奈良住民として身近な会であり、樹木観察・里山作り・野菜作り・各種イベント・例会など自然大学に近い活動に興味を感じました。その時、引き続き自然との係わりを希望してましたから入会させていただきました。

リュックサックを背負う背中の温もりは母の背中の温もりを感じます。母の背中に負ってもらい少し動き、治まりの良いところで母の首の前で両手を組む!!この時の”母の背中の温もり”です!!

そして今、”リュックを背負いお母さんに送られ家を出る時のあのほころんだ笑顔、思わずはしゃぎたくなるような気分”を体で感じながら、再び皆さんの元に向かいたいと思います。よろしく願いします。



★(樫原より)11日夕方7時に突然「カナカナ……カナ」とヒグラシが鳴き始めました。去年は6日の早朝でした。いよいよ夏本番です。

10日の夜11時頃ホトトギスが「キョ キョ キョ キョ」翌朝4時にまた「キョキョキョ」この日はなんか気がつくとい日中 ホトトギスデーかと思うほどよく鳴いてそろそろ 奥山に帰ろうかと皆と話し合いでもしてるのかな?寂しくなるなあー。

(斎藤)

★(斑鳩より)セッカ ヒッヒッヒッヒッと大和川の河原で鳴いています。セッカを知るまではスズメだと思っていました。意外にたくさんいます。

(勝田)

国鳥だけど狩猟鳥、美味だとして食べられる。複雑な身分のこの鳥は開けた耕作地の周りで人間と近い所に住んでいます。抱卵期にある母キジは、山焼きの火に遭っても、卵を捨てて逃げ去るようなことはしない、もろとも焼け死するまで卵を抱き続けている。この情愛の深さから「焼け野のキギス」・「汝は子ゆえに身をこがす」と云われました。以下は中学三年生、国語の教科書に掲載されていた安井玉峰氏の随筆「キジの儀式」から。

ドスンという鈍い音に驚いて寺の庭に出た。そこには銃に撃たれた雄キジが横たわっていた。雌キジは舞い降り、彼を必死に呼び起こす。あんなに警戒心の強い雌キジが、今はもう私のことなど意識に無く、コー、コーと小さい呼び声を出しながら彼の周りをぐるぐる回っています。

時折、彼女の尾羽が私の衣の裾に触れます。そのうち、彼女は彼の嘴の付け根を軽くコツコツとつつき始めました。コー、コー。「起きなさい」といわんばかりです。それでもなんの反応もないと、今度はトサカやおの毛を啜えて持ち上げようとするではありませんか。頭はわずかに上りますが又すぐ地面に落ち、黒い瞳は閉じられたままです。ついに、彼女は彼の体に駆け上がり、必死にコー、コーと鳴き(泣き)ながら、ひとしきり激しく頭を啜えて引っ張りました。もとより効き目はありません。聞いていた雉の情愛の深さとはこれほどのものかと感じ入って、彼女の姿が涙で見えなくなりました。雌キジの声はじつに控えめ「コーコー」である。この後、雌キジは、雄キジから離れては近付くことを数回繰り返し、やがて私のいるのもかまわず勇敢に彼の傍に行き、二、三度くちばしをつついて真心のこもった別れの挨拶をして、去って行った。

長くなりましたが、文脈を大切にしたいためそのまま引用しました。



自然俳句欄

しとね

ぬか床にひと夜の褥茄子の紺 秀夫

ナスくらぶ。今年は大収穫。昨年のリベンジ成る。

浅漬けの紫紺に、暫し見とれる。

☆☆☆

6月例会。金沢・能登の旅。車中での旅吟の一句。

私の独断と偏見による佳句十選をご紹介します。

川井 秀夫 選

五十音順

魚せりの声をかき消す夏時雨
「金蔵」の青田に見える心意気
千の田の段段段と卯波まで
千枚田植田の風のここちよく
畦道に卯の花薫る千枚田
草原に浮かぶ早苗や千枚田
梅雨誘ふ雨もうらめし船人や
千枚田青田の上の風さやか
千枚田の妖しき絵模様青田風
立山の残雪耀る能登の海
早乙女の姿浮かぶや千枚田

阿部 和生
勝田 緑
川井 秀夫
小嶺 敏勝
塩見 弘子
高橋 弘志
谷川 雅邦
豊島すみ子
樋口 善雄
弓場 厚次
吉村さつき



原則 前日の午後7時前のNHK天気予報で降水確率(午前)60%以上の場合は中止

『ならやま里山林プロジェクト8・9月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 (JR 平城山駅下車徒歩10分)

日時：8月 6日 (木) 一般活動日	9月 3日 (木) 一般活動日
8月10日 (月) ならやま野鳥観察の日*	9月14日 (月) ならやま野鳥観察の日
8月22日 (土) 一般活動日 (教育実習生受入れ)	9月19日 (土) 会員 いもほり大会予定 (教育実習生受入れ)
8月27日 (木) ならやま山の日 (里山整備)	9月24日 (木) ならやま山の日 (里山整備)
8月31日 (月) 雨天予備日	9月30日 (水) 雨天予備日

集合：現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

携行品など：弁当、飲み物、軍手 (作業用具は現地にて用意) 服装は、防暑・防虫にもご留意ください。

*環境保護のため、コップ・箸・椀は各自でご用意下さい。

*担当幹事：古川 小嶺 岩田

*ならやま野鳥観察 ~野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による~

☆日程：8月10日 (月) <毎月第2月曜日>

★出発時間・場所：9時・ならやま駐車場 *時間変更にご注意ください。

☆小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

★担当者：小田 ・菊川



<9月の予定>

9月例会 「赤壇の巨樹と佛隆寺」

一彼岸花の参道が美しい佛隆寺と巨樹・巨木を訪ねる一

日 時: 9月26日(土) 予備日:9月29日(火)

集 合: 近鉄 榛原駅 南口バス停10時10分

担 当: 古川祐司 、岩田利秋

*詳細は会報第92号(9月号)でお知らせします

平成21年7月度幹事会議事録

日時: 7月7日(火) 場所: 奈良市中部公民館 司会: 豊島 書記: 大石

「報告事項」

- ① 会員数; 121名
- ② 6月度例会「金沢・能登 里山文化を訪ねる」(会報7月号に既報)
- ③ 7月度例会「ならやま里山の夏」天候の影響か参加者少ない。午前11名午後22名
- ④ ならやま里山林プロジェクト 6月度143名の参加あり前年比67名の増。7月6日実施の世話人会討議事項・山の整備が遅れており1; 会館前の国道沿いの笹刈 2; 入口の整備 3; 遊びの森整備。・甲虫30匹別の棲家づくり、里山体験イベントに活用・農事G 火炎バーナー購入(雑草を燃やす為)・景観G 環境整備の為の大掃除は2ヶ月に一度で 遊歩道沿いのひまわりが美しい・教育研修G後述・教育実習 8月より受け入れ8ブロックに分け植生調査実施
- ⑤ 「インタープリテーション入門講座」: 7月7日に実施され、好評であった。

「確認事項」

- ① 8月~10月行事確認 ・例会9月26日(佛隆寺) 10月10日(南生駒)・ならやまプロジェクト関連・8月2日夏休わくわく自然体験 ・黒髪山CF7月25日~26日キャンプ実施。「ならやま」周辺を周遊する。・8月29日生駒グリーンボランティアが「ならやま学習の森」で森林研修実施。当会応援依頼(里山G対応)。・10月16日シニア環境科「ならやま」見学研修(農事G対応)
 - ② 新企画「ビオトープ」: 思考錯誤しつつ前向きに担当者を中心にして進める。
- 「討議事項」*「会関係書類の保存・廃棄について」他。

編集担当: 勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生